

「若者の移住」調査

【 結果レポート 】

* 本調査は、一般社団法人 移住・交流推進機が
株式会社共同通信社に委託し実施いたしました。

1. 調査概要

【 調査目的 】

人口問題を考える上で、若者の地方への移住は非常に重要な要素である。2014年に「まち・ひと・しごと創生本部」が実施した「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」によれば、東京から移住する予定又は移住を検討したいと思っている人は約4割という結果が出た。一方で移住する上での不安・懸念点としては仕事や日常生活・公共交通の利便性、移住先の人間関係などを挙げる人が多かった。

そこで、

- ・「仕事」について、どのぐらいの収入のどのような仕事が望まれているのか
- ・「住まい」について、どのような住環境が望まれているか、
- ・移住先での「子育て」について、どのようなものが求められているか

について、インターネット調査を行った。

なお人口問題においては、若者の中でも、単身世帯より既婚世帯の意向がより重要と考えられる。そのため今回の調査では、既婚世帯に限定して調査を行った。

【調査概要】

- ・ 調査方法 ウェブモニターアンケート調査
- ・ 対象地域 東京圏（東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県）
- ・ 実施期間 2017年1月12日（木）～17日（火）
- ・ 調査対象者 20代～30代の既婚男女で、地方への移住に興味がある500人
（設問Q1.で地方への移住の興味の有無を確認し、「興味あり」「やや興味あり」「どちらかというに興味あり」と回答した人が、続く設問に回答）

1. 調査概要

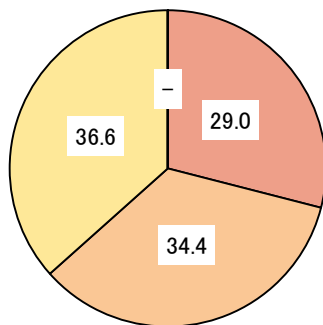
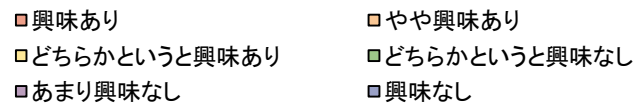
【 設問 】

- Q1. 地方への移住に興味がありますか？
- Q2. 失礼ながら現在の世帯年収を教えてください。
- Q3. 移住に興味がある理由を教えてください。
- Q4. 地方へ移住するとしたら、移住先での住宅について優先する条件を教えてください。
- Q5. 地方移住する事になったとして、あなたの世帯年収の増加の希望範囲／減少の許容範囲をお教えてください。
- Q6. 現在、地方の求人倍率は上がってきており、仕事がない状況ではなく人手不足である地域もよく見られます。移住にあたって勤務先が変わるとして、重視する仕事の条件を教えてください。
- Q7. 政府や自治体などが人口問題を解決するために予算を付けて地方への移住政策を推進していますが、あなたが地方へ移住する事を考えるにあたりどのような制度があると良いと思いますか。
- Q8. あなたが仮に移住先で子育てををするとして、移住先の子育て環境について、重視する条件を教えてください。
- Q9. Q8で選択した子育て環境が移住先にあるかどうか調べるために、有力な情報源は何だと思えますか。
- Q10. あなたが仮に移住先で子育てををするとして、不安に思う事を自由にお書きください。
- Q11. 最後にあなた自身について、地方への移住を妨げている大きな要因は何ですか。

1. 調査概要

【Q1. 地方への移住に興味がありますか？】

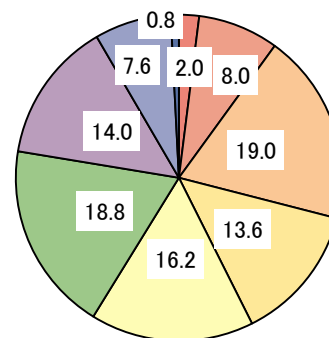
- 「地方への移住に興味がある層」を選択するにあたり「興味あり」(29.0%)、「やや興味あり」(34.4%)、「どちらかというに興味あり」(36.6%)と答えた層を、Q2以下の対象とした。
- 性別では男性230人、女性270人。年代別では20代68人、30代432人から回答を得た。
- なお性年代の内訳は20代男性は18人、30代男性は212人、20代女性は50人、30代女性は220人。



N=500

【Q2. 現在の世帯年収を教えてください】

- 今回の回答者の世帯での年収は「400万円～500万円未満」が19.0%と最も多く、次いで「700万円～900万円未満」(18.8%)、「600万円～700万円未満」(16.2%)、「900万円～1200万円未満」(14.0%)となっている。

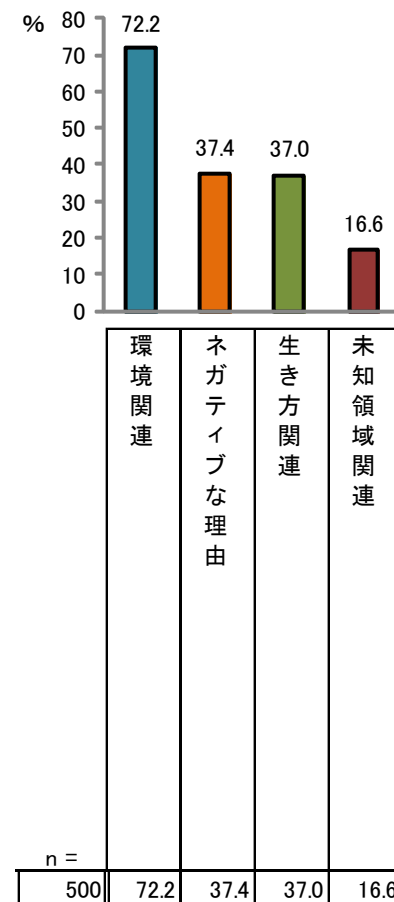
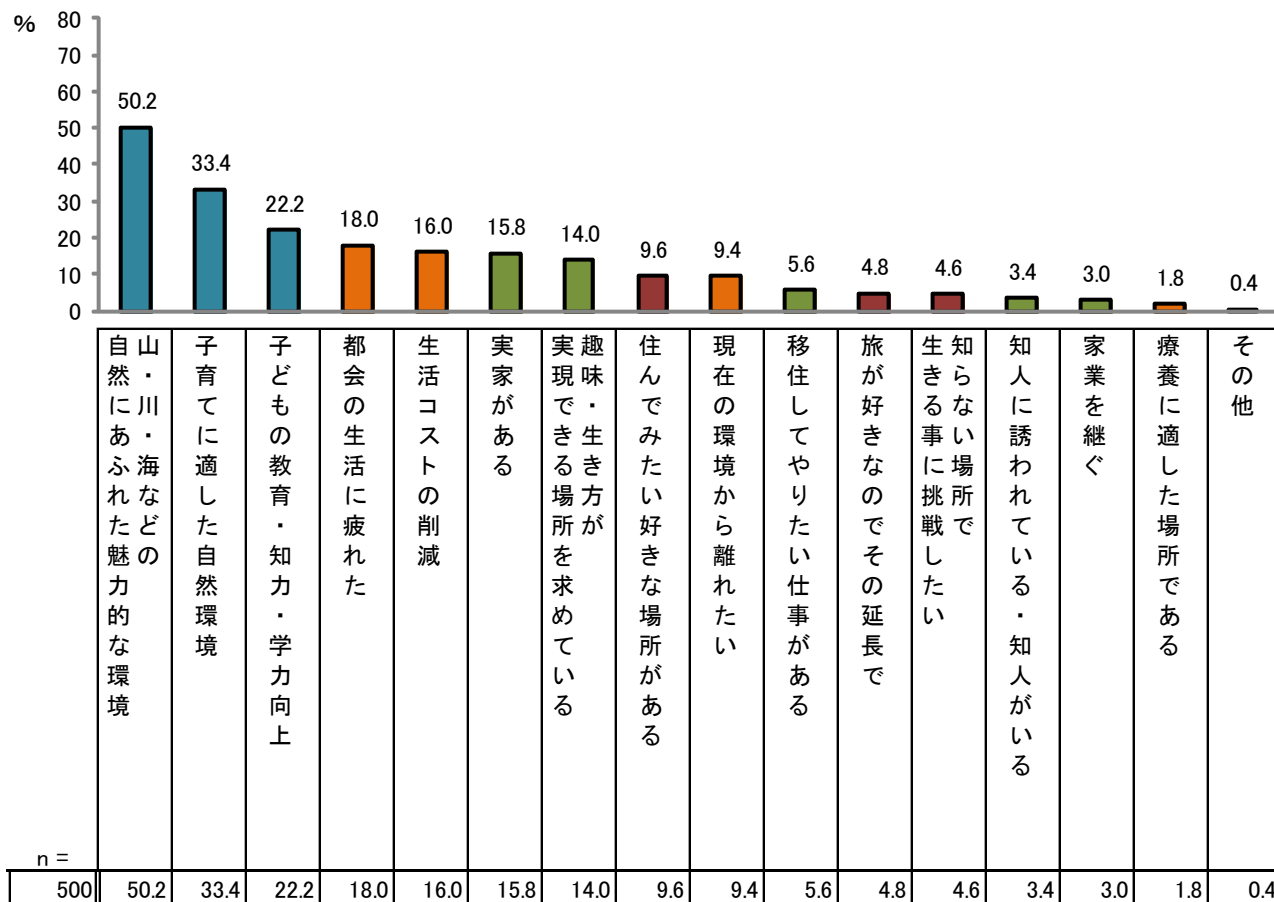


N=500

2. 調査概要

【Q3. 移住に興味がある理由を教えてください（複数選択）】

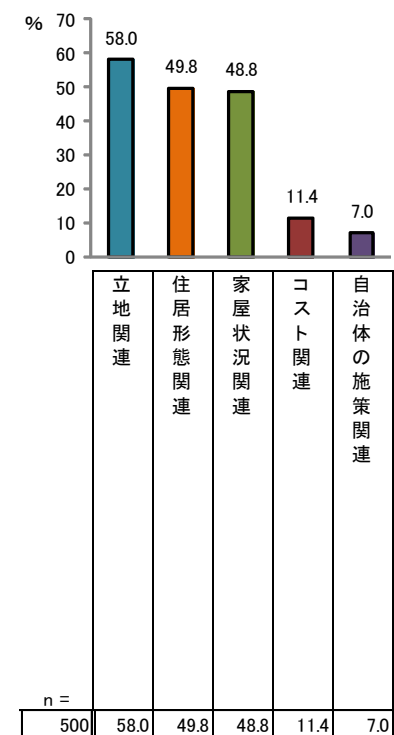
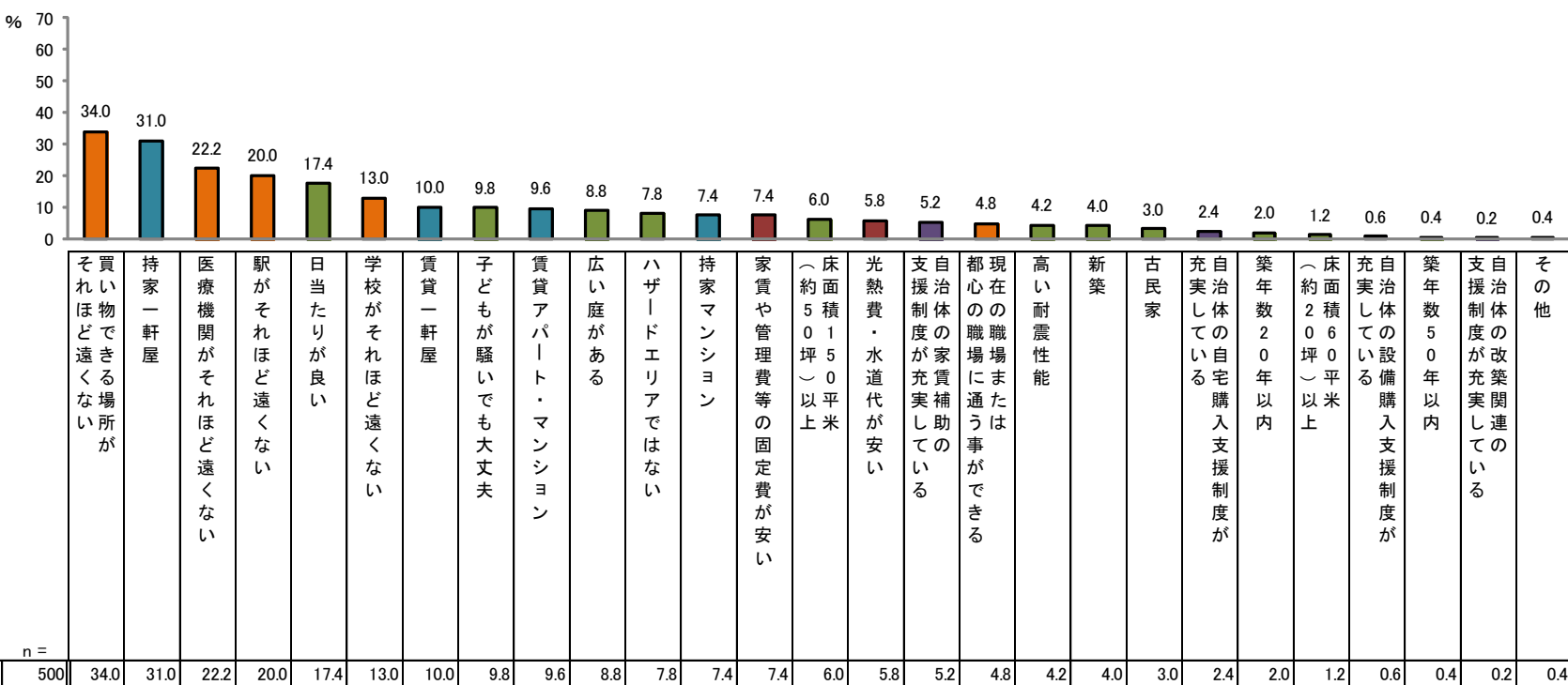
まず、地方への移住に興味を持つのはどのような理由によるものか尋ねたところ、「山・川・海などの自然にあふれた魅力的な環境」（50.2%）、「子育てに適した自然環境」（33.4%）、「子どもの教育・知力・学力向上」（22.2%）が上位を占めた。選択肢のうち、環境にまつわる選択肢を選んだのが72.2%と全体の7割超に及んだ。「都会の生活に疲れた」などのネガティブな理由を選んだのは37.4%、「実家がある」などの生き方に関連する理由は37.0%だった。



2. 調査概要

【Q4. 地方へ移住するとしたら、移住先での住宅について優先する条件を教えてください（複数選択）】

移住先での住まいの条件を尋ねた。多かったのは「買い物できる場所がそれほど遠くない」（34.0%）、「持家一軒屋」（31.0%）、「医療機関がそれほど遠くない」（22.2%）。買い物できる場所、医療機関、駅、学校への距離など立地に関する選択を選んだのは58.0%。住居の形態に関するものが49.8%、日当たりなど家屋の状況に関するものが48.8%だった。



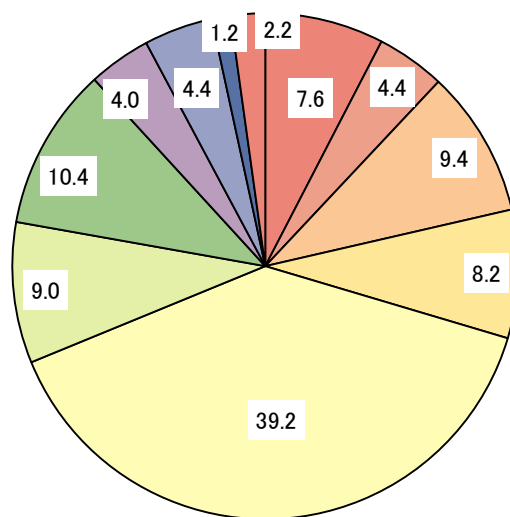
2. 調査概要

【Q5. 地方移住する事になったとして、あなたの世帯年収の増加の希望範囲／減少の許容範囲をお教えてください】

地方に移住した場合の世帯年収について尋ねた。「現在と変化なし程度が好ましい」が最も多く39.2%を占めた。「10%程減少まで許容できる」が10.4%、「10%程増加を希望」が9.4%と続いた。

一方で、世帯年収によるクロス集計によると、どの層も「変化なしが好ましい」との回答が最も多かった。しかし続く回答は500万円未満の層では「10%程増加を希望」「20%以上増加を希望」が多く、500万円～700万円未満の層では「5%程減少まで許容できる」、700万円以上の層では「10%程減少まで許容できる」との回答が多かった。

- 20%以上増加を希望
- 15%程増加を希望
- 10%程増加を希望
- 5%程増加を希望
- 現在と変化なし程度が好ましい
- 5%程減少まで許容できる
- 10%程減少まで許容できる
- 15%程減少まで許容できる
- 20%程減少まで許容できる
- 25%程減少まで許容できる
- 30%以上の減少も許容できる

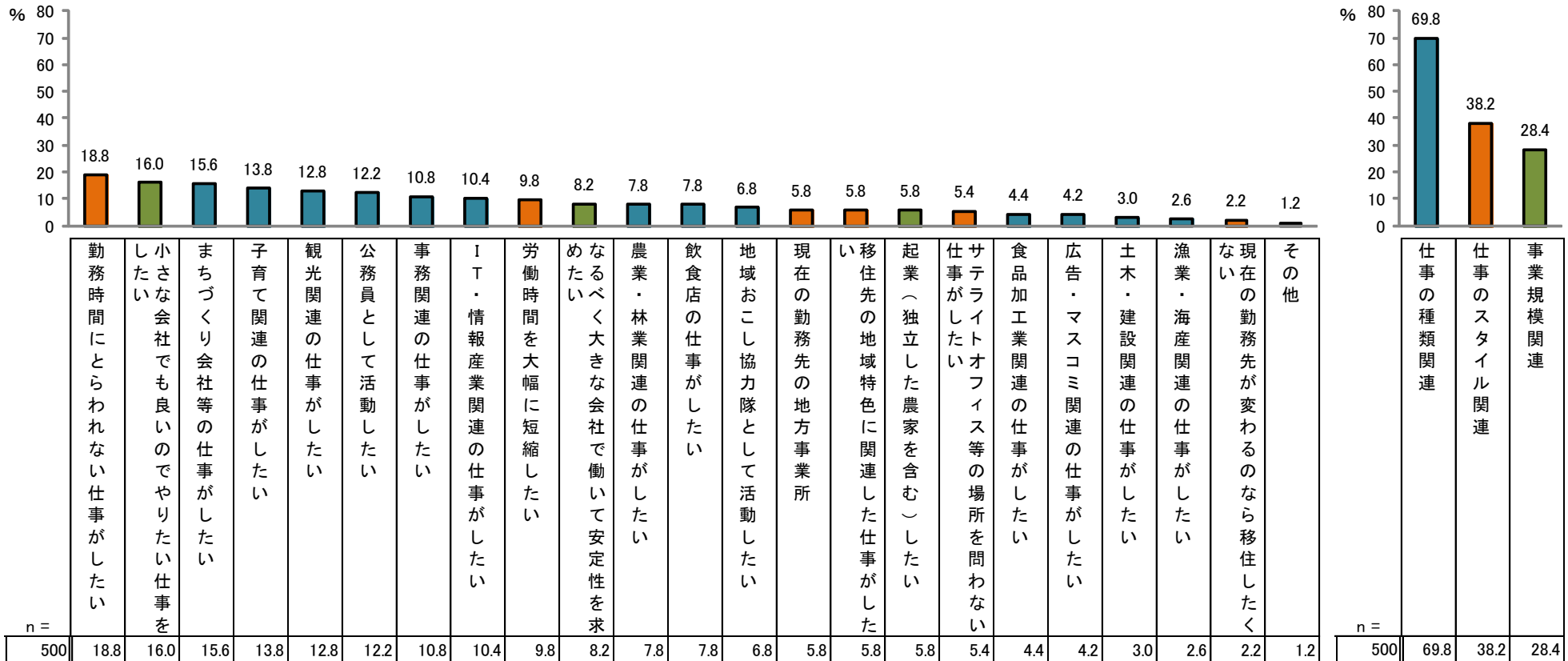


N=500

2. 調査概要

【Q6. 現在、地方の求人倍率は上がってきており、仕事がない状況ではなく人手不足である地域もよく見られます。移住にあたって勤務先が変わるとして、重視する仕事の条件を教えてください（複数選択）】

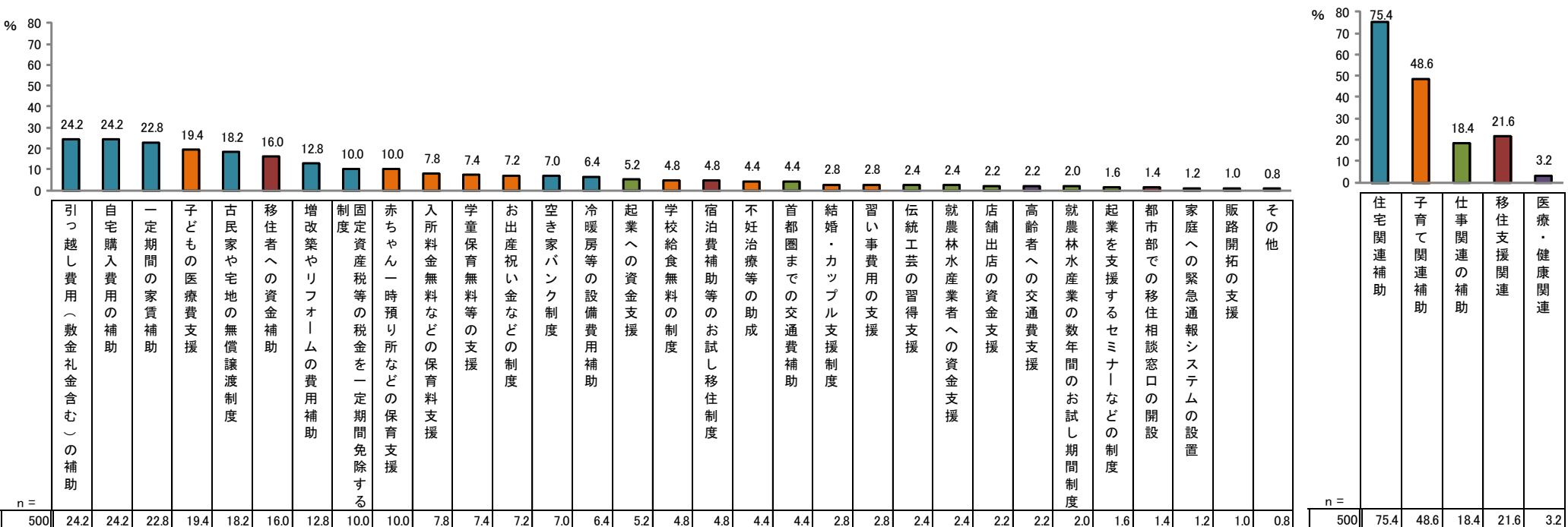
厚生労働省の発表によると、平成28年4月の就業地別の有効求人倍率（季節調整値）は、平成17年2月の集計開始以来初めてすべての都道府県で1倍を上回った。そんな中、移住先で重視する仕事の条件として多かったのは「勤務時間にとられない仕事をしたい」（18.8%）、「小さな会社でも良いのでやりたい仕事をしたい」（16.0%）、「まちづくり会社等の仕事をしたい」（15.6%）などだった。「子育て関連の仕事」「観光関連の仕事」など仕事の種類を選んだ人が多く69.8%。勤務時間にとられない仕事をしたいなど仕事のスタイルについての選択肢を選んだのが38.2%、会社の事業規模に関連する選択肢を選んだのが28.4%だった。



2. 調査概要

【 Q7. 政府や自治体などが人口問題を解決するために予算を付けて地方への移住政策を推進していますが、あなたが地方へ移住する事を考えるにあたりどのような制度があると良いと思いますか（複数選択）】

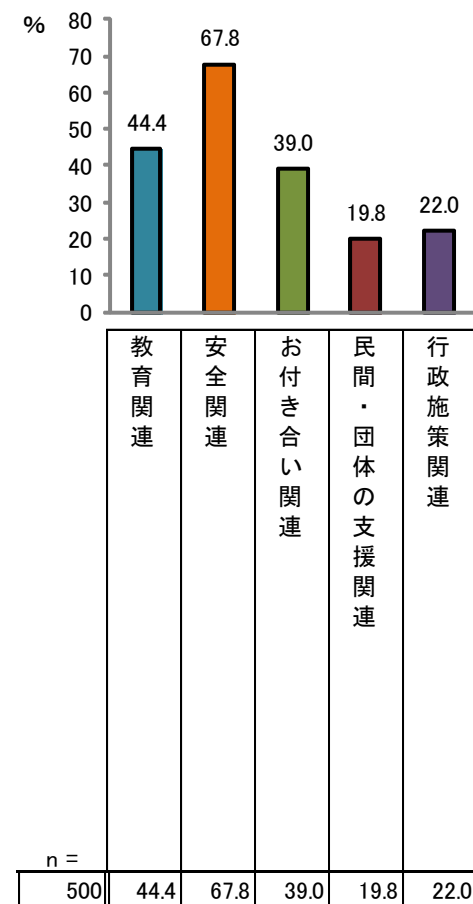
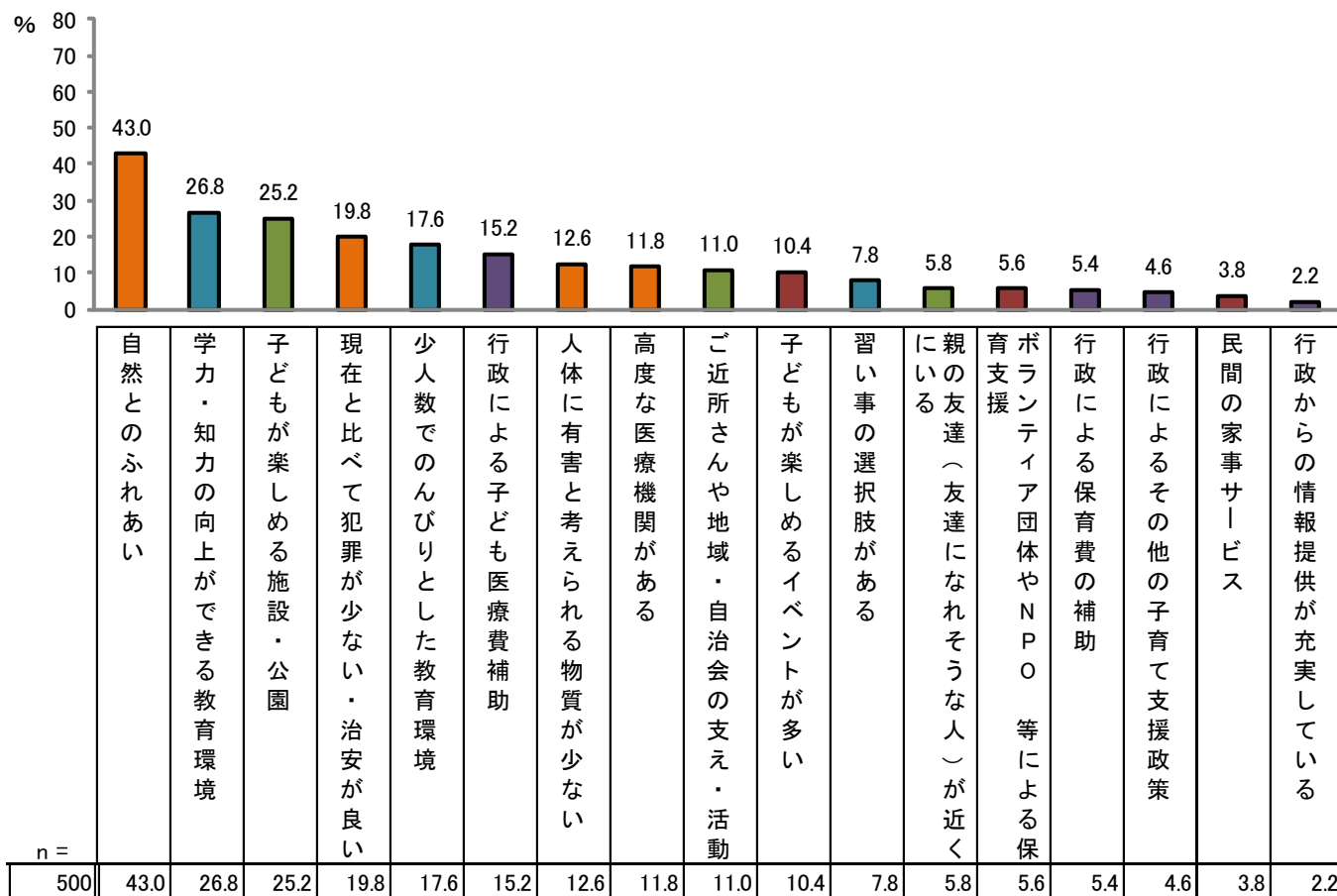
移住を希望する人たちが移住先で望む制度について尋ねた。「引っ越し費用（敷金礼金含む）の補助」と「自宅購入費用の補助」がいずれも24.2%を占めトップ。「一定期間の家賃補助」が22.8%で続くなど、住宅に関連する補助を挙げたのが75.4%と4分の3を超えた。「子どもの医療費支援」など子育てにまつわる補助が48.6%と続いた。



2. 調査概要

【Q8. あなたが仮に移住先で子育てををするとして、移住先の子育て環境について、重視する条件を教えてください（複数選択）】

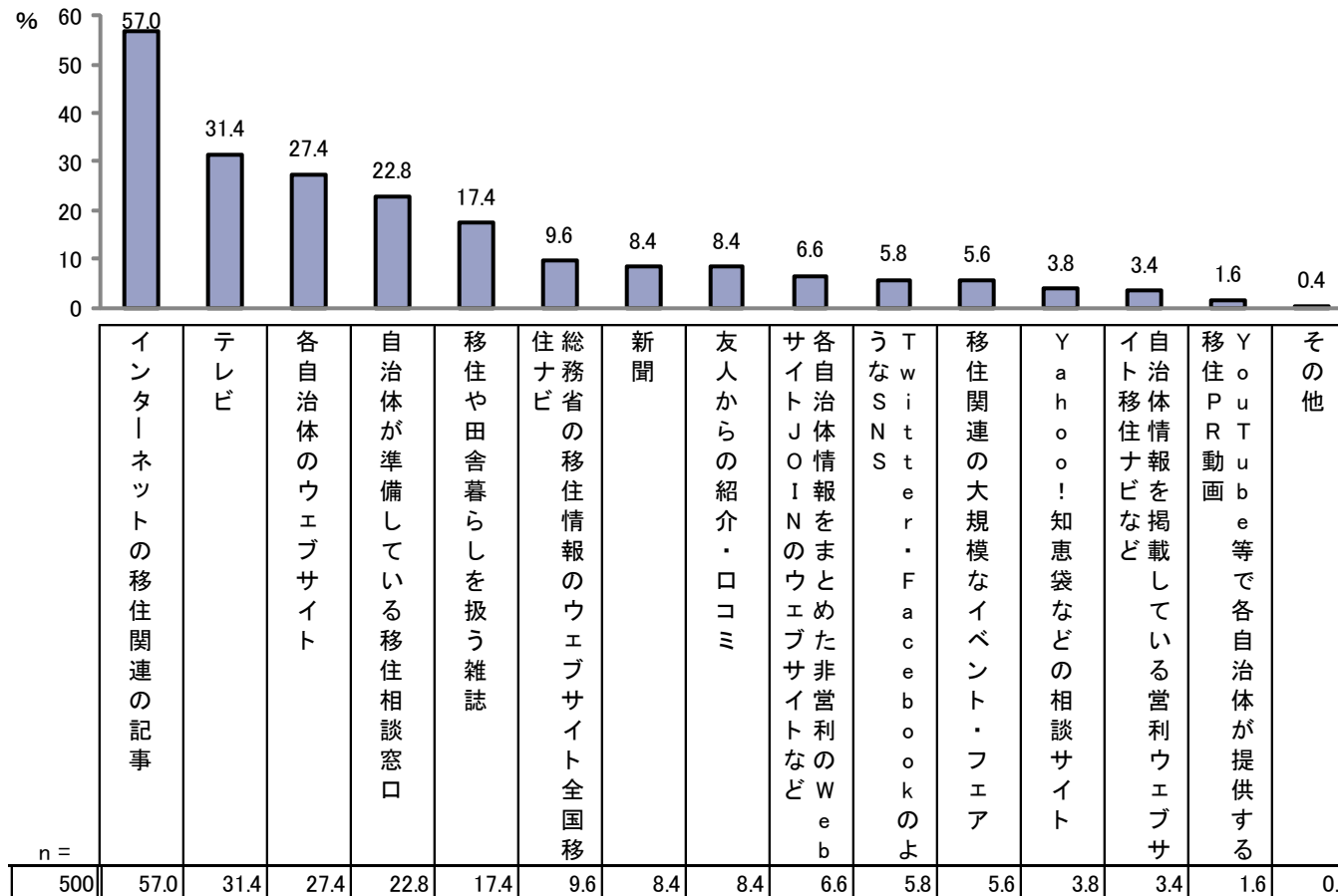
移住先で子育てをする場合どのような条件を重視するか尋ねた。最も多かったのは「自然とのふれあい」で43.0%。以下「学力・知力の向上ができる教育環境」（26.8%）、「子どもが楽しめる施設・公園」（25.2%）となった。「現在と比べて犯罪が少ない・治安が良い」など、安全に関する選択肢を選んだのが67.8%と3分の2を超えた。



2. 調査概要

【 Q9. Q8で選択した子育て環境が移住先にあるかどうか調べるために、有力な情報源は何だと思いますか(複数選択)】

移住先の子育て環境を調べるためにどんなメディアを情報源とするか尋ねたところ「インターネットの移住関連の記事」が57.0%と過半数を超えた。続いて「テレビ」(31.4%)、「各自治体のWeb サイト」(27.4%)が続いた。



2. 調査概要

【 Q10. あなたが仮に移住先で子育てををするとして、不安に思う事を自由にお書きください】

●人間関係

いじめられないか不安（東京都 女性 36歳）

その地域にすぐとけこめるのか。またよそ者扱いされるのではなく、迎え入れていただけるのか（埼玉県 女性 37歳）

環境が変わることによって子供が変化についていけるかどうか（埼玉県 女性 26歳）

近所と仲良くできるか、住む地区の祭りや掃除などの役割の負担がどのくらいあるか（東京都 女性 28歳）

現在の友人関係・地域の関係と遠くなってしまうことが寂しい（神奈川県 女性 32歳）

知り合いがないから母と子供だけで孤立してしまう。相談相手がない（神奈川県 女性 28歳）

友達がちゃんとできるか。子どもと同世代の家族がいるか（千葉県 女性 26歳）

トラブル（いじめ）が起きたとき、都会のように、フリースクールやカウンセラーなど、多様な選択肢がない（東京都 男性 33歳）

●教育

学校までの通学の距離と、都市部に比べて学力が下がらないかどうか（埼玉県 女性 39歳）

高校・大学の進学先の選択肢の少なさ・不便さが避けられないと思うこと（東京都 男性 35歳）

子どもたちがのびのびと過ごせる環境が整っているのか（東京都 女性 39歳）

●医療

医療機関が充実しているかが不安。子どもは急に具合が悪くなるが多そうなので（東京都 女性 27歳）

今病院などが近くにあり、選択肢の多い環境にいるため、医療機関が限定されることが不安（神奈川県 女性 32歳）

病院設備や技術力が最新かどうか（千葉県 女性 38歳）

●仕事

収入の減少を不安に思っています（埼玉県 男性 38歳）

就職先が見つかるかどうか（東京都 女性 33歳）

●治安・安全

すごく田舎だと、夜の怖さとか治安が心配（東京都 女性 30歳）

通学路など安全かどうか（神奈川県 女性 30歳）

道路や信号などが整っていないと、特に高齢者が増えている地方では事故が起きないかとても心配です（神奈川県 女性 34歳）

2. 調査概要

【Q11. 最後にあなた自身について、地方への移住を妨げている大きな要因は何ですか（複数選択）】

最後の設問として移住を妨げている要因を尋ねたところ「移住先では求める給料水準にない」（25.6%）、「田舎の人間関係が不安」（23.6%）、「どこから手を付けて良いのかわからない」（21.2%）が挙げられた。仕事が原因で移住できないとする人が48.4%、人間関係の変化に対する不安を挙げた人が44.2%、情報不足を挙げる人が34.8%だった。「よく考えるとそもそも移住は不要」と考える層も10%超だった。

